平成30年度「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」 ～草加市立川柳中学校～

現状の課題と課題解決のための手立て

・埼玉県学力学習状況調査では、全ての領域において、県平均を1．1ポイントから1．9ポイント下回っており、特に表現の能力に課題があった。そこで、CAN－DOリストの運用と見直し、言語活動の統一、パフォーマンステストの実施、自己評価シートの活動と振り返り等を実践した。

具体の取組の内容

① CAN－DOリストの運用と見直し（草加市CAN-DOリスト策定）

Grade	到達時期	評価の観点：外国語　理解の能力		評価の観点：外国語　表現	
		聞くこと	読むこと	話すこと（やりとり）	話すこと（発表）
3rd Goal	卒業まで	日常生活の身近な話題に関する話や、簡単なアナウンスなどを、ゆっくり話されれば、その概要を理解できる。	普段の話・物語やノンフィクションを、絵や注釈を参考にしながら読んで、文章の概要を理解できる。	過去や未来の日常生活の身近な話題について、つなぎことばや相づちを使いながら論理的な対話を続けることができる。	これまでに習った文法事項や単語などを使って日本の[illegible]や将来の夢などの自己PR[illegible]0文程度で紹介することができる。
Grade 9	3年 3学期 終了時	卒業への思い、将来の夢などのメッセージを聞いて、ゆっくり話されれば、その概要を理解できる。	卒業への思い、将来の夢などのメッセージを読んで、その概要を理解できる。	中学校生活で頑張ったこと、卒業に向けた思い、将来の夢などについて、お互いに伝え合い、対話することができる。	中学校生活で頑張ったこと、卒業に向けた思い、将来の夢などについて、論理的に[illegible]ることができる。
		Special Project	Special Project	Special Project	Special Project
Grade 8	3年 2学期 終了時	簡単なアナウンスで、ゆっくり話されれば、重要な情報を理解できる。	文化の紹介やホームページ上の文を読んで、その概要を理解できる。	友達やALTと電話での会話などを通して、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。	関心のある事柄（日本の[illegible]や祭）について、考えた[illegible]などを、簡単な語句や文[illegible]いて話すことができる。

② 帯活動 「Free Talk」

・自由英会話
・テーマをもって会話
・グループでの会話
・会話の内容の書き取り等

③ 草加市独自の副教材の活用

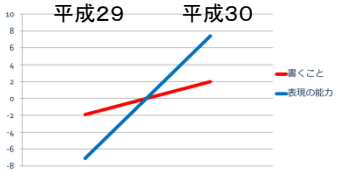
（自己表現活動・振り返り）
「話すこと」で用いた内容を「書く」活動でもアウトプットする。

④ センテンスマラソンの実施

「話すこと」を「書くこと」につなげる活動
・Activityなどで使用した英文を記入
・Free Talkにおけるメモ
・1文英作文
・1000文書く。発達段階に応じて「書き写す」から、自己表現活動へ

成果①

・平成30年度埼玉県学力学習状況調査の結果から、教科の領域である「書くこと」が県平均よりも2ポイント上回り、外国語表現の能力は7．4ポイント上回る結果となった。



・外部検定試験の結果

比較集団	英検3級取得生徒数	英検3級取得率
H29第3学年	57人	33．1%
H30第3学年	66人	39．2%

成果②

・【生徒の変容】言語活動の充実により、発話した内容の文構造が理解でき、それを「書くこと」によって、定着を図ることができた。さらに、「書くこと」に対するフィルターが低くなり、文章をペンを止めることなく、書くことができるようになった。。
・【教師の変容】共通の活動を全学年行ったことで、若手教員とベテラン教員とが情報交換を密に行いながら、PDCAサイクルにより、より良い授業スタイルの確立を目指すことができた。
・【指導主事から見た変容】直接大学教授からの指導により、自信と根拠を持って研究を推進し、生徒の変容が教師の授業スタイルの変容へと導いていた。

今後の課題・方向性

・研究の推進により、授業スタイルの方向性が確立され、教師同士での情報交換から、PDCAサイクルにより、常に改善策を見出していくことができてきた。
・「書くこと」の領域や「表現の能力」に大きな成果が見られたが、「読むこと」の領域や「外国語理解の能力」にまだ、課題が見られる。
・パフォーマンステストの計画的な実施により、さらに「話すこと」の評価を充実させていく。
・CAN-DOリストの運用により、教師の指導を振り返り、生徒の「できること」が確実に身に付いているかを確認する。さらに、生徒自身が「できる」と実感できるよう支援していく。
・教師の英語力が向上できるよう、市教委とも連携して、教員研修も継続して進めていく。